

第3回室蘭市高齢者保健福祉計画介護保険事業計画策定協議会議事録

1. 開催日時 平成23年10月21日（金）14:00～
2. 開催場所 室蘭市役所本町舎2階大会議室
3. 出席委員 加藤会長、安田委員、内池委員、立山委員、石川委員、工藤委員、井脇委員、小林與志美委員、藤井委員、藤本委員、草場委員、前田委員（3名欠席）

事務局 國枝介護福祉課長、小栗主幹[介護保険]、舛田主幹[福祉計画]、
清水健康づくり課主幹
赤石福祉総務係長、滝沢介護保険係長、本野介護認定係長、

4. 会議内容

事務局

- 室蘭市高齢者日常生活圏域ニーズ調査 集計結果 分析・・・・・・・・説明
- 介護保険サービス利用者意向調査結果の概要・・・・・・・・説明
- 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）入所申込状況調査・・・・・・・・説明
- 介護保険サービス等提供量調査・・・・・・・・説明
- 第5期介護保険事業計画の推進等について・・・・・・・・説明

A委員

情報の取得源について、広報が意外と高いというのが凄い。今後も広報を活用していただきたい。

住まいの老朽化で困っているがずっと住みたいという思いをどう解決したら良いか。

室内で転倒多く不安。えみなメイトの周知が低い。

B委員

えみなメイトを町内回覧で知らせているが、22名位で男性はゼロ。坂道多く、会場の近くの人は利用する。老人クラブも女性のみで坂道多いと利用者が少ない。高齢者マップ作りも行っているが、坂道で車が通れない場所には空家が多い。

C委員

えみなメイトについて、予防の為の事業だが人によっては運動の強度が強いと聞いた。

高齢者は個人差が大きいので、参加者に無理のない内容に改善してほしい。

D委員

広報での周知をもっと活用して、特集などでえみなメイトを具体的に紹介して欲しい。

家族と同居が多く安心だが、反面、家族の負担も多くなっていると感じた。

E委員

白鳥圏域の車利用者が多い。白鳥台は交通の便が悪く、今後車の問題が大きな問題になる。

住まいの満足度で9割近くの方が今の生活を続け、住み続けたい。居宅サービスの充実が必要。

緊急通報システムについて、独居の方は不安を持つ方が多いが費用が高いとの声も聞く。孤独死などの不安もあることから、拡大・支援の検討をして頂きたい。

会長

他市町村の緊急通報システムについて調べて欲しい。

F委員

足腰が痛くて外出できないがリハビリには興味がある。えみなメイトも興味はあるが、内容がわからないのかと感じた。気軽に行けるサロンのような所が増えれば良いが、広報で具体的に周知すべき。

坂道が多い地域ではタクシーの利用が多い。ケア移送サービスが増えれば良い。

G委員

包括支援センターの認知度が低いので、もっと周知しなければいけないと感じた。

いこい圏域は地域的には街中が多く、比較的恵まれているが、坂の上の八丁平は、お金をおろす時は中島まで行かなければならない。

H委員

相談先の包括支援センターの認知度が低いので広める努力をしなければいけない。

除雪について、地域によって差がある。除雪車が入れない所では、高齢者や近所の人々が協力して除雪を行っている。社協のボランティア等が広がれば良い。

予防事業やデイサービスは女性の出席者が多い。男性の閉じこもり対策は、難しいが取り組みが必要。

I委員

生きがいづくりについて、特養でのリハビリの目的は運動とリハビリに加えて、楽しみの場になっている。施設として希望は話し相手のボランティアが必要。

J 委員

えみなメイトで怪我とか具合が悪くなったとかの話は聞こえてこない。無理に身体を動かすのではなく楽しみながら行っている。好き嫌いはあるがふれあいが大事。

K 委員

室蘭市でずっと生活していきたいというのが、一番の支え。地域で、職種を超えてどのように支えていくのかが、これから重要。

L 委員

利用者、利用者予備軍の意識が変われば内容も変わってくる。尊厳死を望む方が増えると、緊急通報システムは、いらないと思う。尊厳死とカリビングウィルについて、広報を活用して周知を。

会長

地域密着型サービスについて、具体的にご家族として内容等は、おわかりでしょうか。

包括支援センターも名前は知っていても、具体的にはどんな所かあまりわからないのでは。

D 委員

サービス・施設のそれぞれについては、何が少しずつ違っているのか、どこで何をやっているのかははっきりわからない。

自分がその立場にならないと、見よう、知ろうとしない。サービスを求めるだけじゃなく、私たちの意識の変化が必要。

もっとたくさんの方の意見を聞いたほうが良い。専門的な事はわからないが、わからないなりの意見もあると思う。

E 委員

在宅医療の認知度が低い。在宅で生活していく選択肢が幅広いという事を広報して欲しい。施設の整備をするのは必要だが、在宅医療や介護保険の居宅サービスを利用して、在宅で暮らせることを知らない方も、相当いるのでは。

F 委員

ケアシステムについては、ネットワークづくりをしていかななくてはいけない。介護保険ニーズ調査に基づくと、住み慣れた街で安心して暮らしていく為に、何が必要かだと思う。第5期計画の中で新たな3つの介護保険サービスについて具体的に知りたい。

事務局

- 介護予防・日常生活支援総合事業について・・・・・・・・・・説明
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護・複合型サービスについて・・説明

F委員

介護予防・日常生活支援総合事業は社会資源が充実していないと、サービス低下につながると思うが、室蘭市はどうするのか。

事務局

他市の動向をみながら。

G委員

特養申込者のうち、介護保険施設に入っている人の多くは老人保健施設にいると思われ、本来の老人保健施設の役割としては違ってきているように感じる。特養の数が少ないとは思わない。

H委員

短期入所について、気軽に利用できる短期入所生活（療養）介護を充実してほしいという意見が多かったという事ですが、現場や家族からも声を聞くので、負担を少しでも軽くできればと思う。

会長

室蘭市の人口は今後も減少していく。高齢者は増え、介護認定者も増えていく。アンケートの結果を見ると、今のまま生活していきたいという市民の方が多い。

A委員

介護する方の支援も必要。気軽にショートステイできるような場所が、元気な街をつくるには必要。気軽に使えるというのは、急に希望したり出かけるのでちょっと利用したいなどでも使えるということ。

会長

民間のショートステイは、金額的に高いがいつでもニーズに応えられる。市も介護保険の枠を別にして、視野を拡大して第5期に反映して頂きたい。

事務局

次回の会議について説明・・・・・・・・11月4日（金）を予定